

市場の動向

【金利】

7月末に0.0%台前半だった長期金利（10年国債利回り）は、8月末も同水準になりました。長期金利は、米金利上昇の影響を受け上昇する局面もありましたが、新型肺炎感染拡大やアフガニスタン情勢の緊迫化による地政学リスクの高まりが国債需要を支えたことで低下し、月間ではほぼ横ばいで終わりました。

【外国為替】

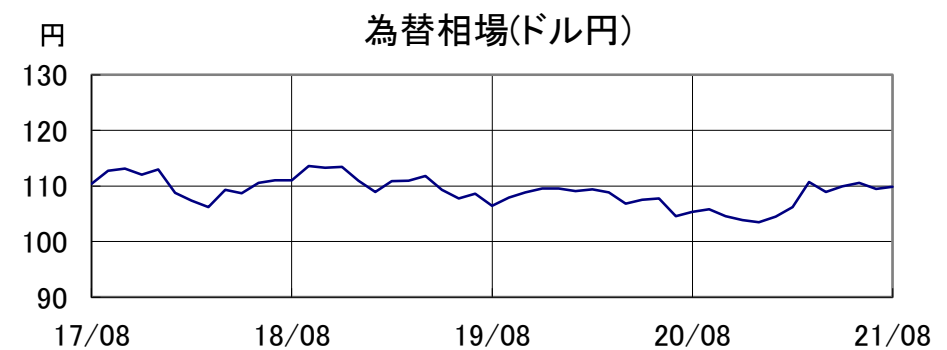
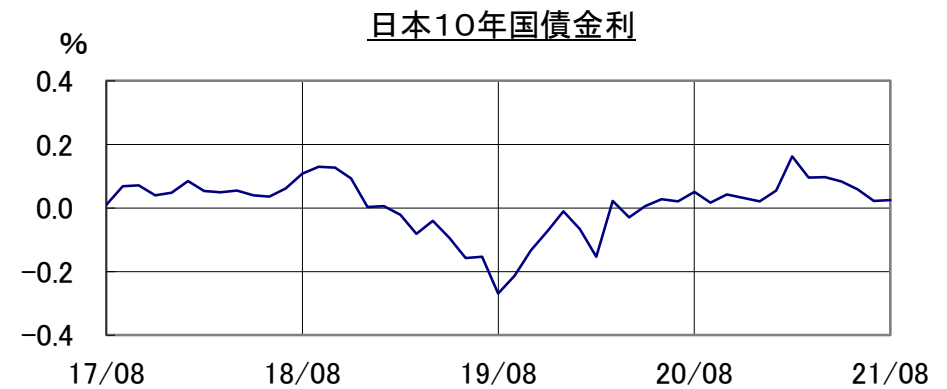
7月末に109円台半ばだったドル円は、8月末には109円台後半へと円安ドル高が進行しました。ドル円は、米上院のインフラ投資法案可決が好感され円安ドル高が進行した一方で、アフガニスタン情勢の緊迫化から地政学リスクが意識され円高ドル安が進行し、もみ合う展開となりました。7月末に130円台前半だったユーロ円は、8月末には129円台半ばへと円高ユーロ安が進行しました。ユーロ円は、市場予想を下回った欧州経済指標が経済回復の鈍化を意識させ、ユーロ安が進行しましたが、欧州中央銀行の高官による金融緩和の縮小に前向きな発言を受けて、下げ幅は縮小しました。

【日本株式】

7月末には27,283円だった日経平均は、8月末には28,089円へと3.0%上昇しました。日経平均は、国内大手自動車メーカーの減産計画表明を受けて関連業種に売りが波及し、下落する場面もありましたが、堅調な企業決算や米株高を受けて上昇しました。

【外国株式】

7月末から8月末にかけて、NYダウは1.2%上昇し、NASDAQは4.0%上昇しました。欧州市場ではFT100（英国）は1.2%上昇し、DAX（ドイツ）は1.9%上昇しました。米国市場は、ファイザー製の新型コロナウイルスワクチンの16歳以上への使用が正式に承認され、ワクチン接種加速による経済活動の正常化期待が膨らんだことや、米金融当局が資産買入れ縮小開始までの時間的猶予を示唆したことから上昇しました。欧州市場は、堅調な企業決算を受けて上昇しましたが、ユーロ圏景気と関係性が高い中国の経済指標が軟調だったことから上値が抑えられる展開となりました。



お客様にご確認いただきたい事項

ご負担いただく費用などについてご確認ください。

- お払込みいただいた保険料のうち、その一部はご契約時およびご契約後に下記の費用等にあてられ、それらを除いた金額が特別勘定で運用されます。
 - 保険契約の締結、維持に係る費用
 - 特別勘定の運用に係る費用
 - 死亡保障などに係る費用
- ※ 控除される費用は、契約年齢・性別・保険料払込期間等により、契約ごとに異なるとともに、保険期間中変動します。そのため、費用の合計額や計算方法を表示することはできませんので、ご了承ください。
- 契約日から10年以内、かつ保険料払込期間中に解約・減額された場合、解約日の積立金額から経過年数に応じた所定の金額（解約控除）を控除した金額が解約返戻金額となります。
 - ※ 上記期間経過後は、積立金額と解約返戻金額は同額となります。
 - ※ 保険料払込方法が一時払の場合は、解約控除は発生しません。

運用リスクについてご確認ください。

- 変額保険は、保険金額や解約返戻金額が特別勘定資産の運用実績に基づいて増減する仕組みの生命保険です。
- 特別勘定資産は、日本の株式や公社債および外国の株式や公社債などで運用されます。そのため、株価や公社債価格の変動リスク、為替の変動リスク、信用リスクなどの運用リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる解約返戻金額が払い込まれた保険料の合計額を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。なお、各特別勘定の運用方法は、以下のとおりです。
 - 国際型 外国の株式を中心に一部日本の株式を組入れ運用します。
 - 株式型 日本の株式を中心に運用します。
 - 総合型 日本の公社債・外国の公社債を中心に、一部日本の株式および外国の株式を組入れ運用します。
- 各特別勘定への繰入割合や積立金の構成割合を変更した場合には、選択した特別勘定の種類によっては運用対象や運用リスクの種類・大きさが異なることとなりますので、ご注意ください。
- 変額保険の主契約の死亡・高度障害保険金は、契約時に定めた基本保険金額が最低保証されますが、解約返戻金は最低保証されません。